

海外の畜産物の需給動向

牛肉

米 国

26年4月の牛肉生産量は前年同月比6.5%減、26年予測は前年比1.8%減

26年4月の牛肉生産量は前年同月比6.5%減

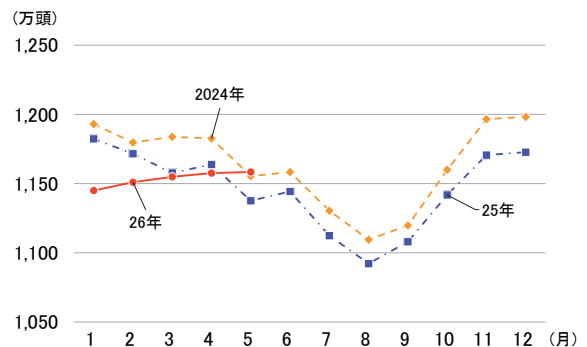
米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）によると、2026年4月の牛と畜頭数は234万2000頭（前年同月比9.0%減）とかなりの程度減少した。1頭当たり枝肉重量は408.7キログラム（同2.7%増）とわずかに増加したものの、と畜頭数の減少を補うには至らず、同月の牛肉生産量は95万1000トン（同6.5%減）とかなりの程度減少した（図1）。

と畜頭数の減少について、米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、より高値で販売されることを見越してフィードロット

において肥育牛の出荷を留保する動きがあるためと考えられている。その結果、5月1日時点のフィードロット飼養頭数は、1158万4000頭（前年同期比1.8%増）とわずかに増加した（図2）。

26年の牛肉生産量についてUSDAは、前月予測から11万トン引き下げた1158万8000トン（前年比1.8%減）に下方修正した。

図2 フィードロット飼養頭数の推移

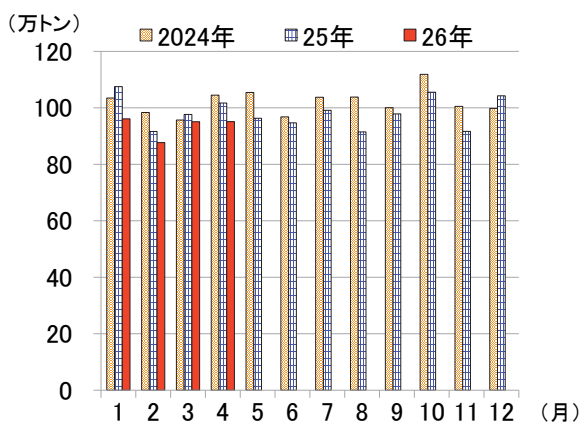


資料：USDA「Cattle on Feed」

注1：1000頭以上規模のフィードロットが対象。

注2：各月1日時点。

図1 牛肉生産量の推移



資料：USDA「Livestock and Meat Domestic Data」

注：枝肉重量ベース。

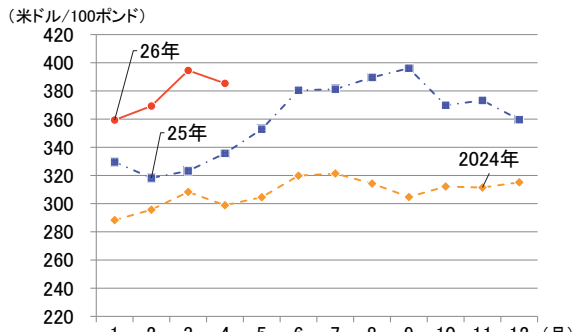
26年4月の牛肉卸売価格は前年同月をかなり大きく上回って推移

USDA/ERSによると、2026年4月の肥育牛（ネブラスカの相対取引価格、チョイス級、去勢）の価格は、100ポンド当たり252.3米ドル（1キログラム当たり892円：1米ドル＝160.39円^(注1)、前年同月比20.2%

高)と前年同月を大幅に上回った。また、牛肉卸売価格(カットアウトバリュー^(注2))は、同385.4米ドル(同1363円、同14.8%高)と前年同月をかなり大きく上回った(図3)。今後の卸売価格の動向について、肥育牛の出荷ペース次第では、より高値での推移も予測されている。

(注1) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年5月末TTS相場。
(注2) 各部分肉の卸売価格を1頭分の枝肉に再構築した卸売指標価格。

図3 牛肉卸売価格の推移



資料：USDA「Livestock and Meat Domestic Data」
注1：カットアウトバリュー（各部分肉の卸売価格を1頭分の枝肉に再構築した卸売指標価格）。
注2：チョイス級、600～900ポンド。

26年3月の牛肉輸出量は前年同月比19.0%減

USDA/ERSによると、2026年3月の牛肉輸出量は9万4007トン(前年同月比19.0%減)と大幅に減少した(表)。中国向けについては、米国内の牛肉輸出施設の大部分で中国海関総署(GACC)による中国向け輸出に係る認可登録の更新手続きが行われていなかったことから、同国への牛肉輸出の大部分が停止し、3月も553トン(同97.1%減)と低水準となった。しかし、5月15日、大部分の牛肉輸出認可施設の更新が行われ、今後、同国向けの動向が注目される(注3)。

(注3) 5年ごとの認可登録の更新時期を迎えていた2025年3月以降、GACCによる牛肉の輸出認可施設の大部分について未更新の状況が続いていた。詳細については、海外情報「米中は農畜産物貿易の拡大に合意、牛肉輸出認可施設の登録も更新(米国)」(https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_004361.html)をご参照ください。

表 輸出先別牛肉輸出量の推移

(単位：トン)

| 国名 | 2025年3月 | 26年3月 | 前年同月比(増減率) | 構成比 | 26年(1～3月) | |
|---------|---------|--------|------------|--------|------------|--------|
| | | | | | 前年同期比(増減率) | |
| 韓国 | 25,725 | 24,696 | ▲4.0% | 26.3% | 66,748 | ▲7.0% |
| 日本 | 26,124 | 21,328 | ▲18.4% | 22.7% | 60,000 | ▲17.1% |
| メキシコ | 12,149 | 10,431 | ▲14.1% | 11.1% | 32,665 | ▲7.7% |
| カナダ | 8,469 | 7,818 | ▲7.7% | 8.3% | 24,281 | ▲8.7% |
| 台湾 | 6,992 | 6,453 | ▲7.7% | 6.9% | 18,024 | 7.8% |
| 香港 | 2,920 | 6,155 | 110.8% | 6.5% | 17,529 | 110.2% |
| ドミニカ共和国 | 1,527 | 1,555 | 1.8% | 1.7% | 4,371 | 18.7% |
| フィリピン | 1,523 | 1,473 | ▲3.3% | 1.6% | 3,518 | ▲21.6% |
| グアテマラ | 1,206 | 1,403 | 16.4% | 1.5% | 4,286 | 24.5% |
| インドネシア | 75 | 1,224 | 1524.7% | 1.3% | 2,346 | 850.3% |
| その他 | 29,303 | 11,470 | ▲60.9% | 12.2% | 32,163 | ▲60.0% |
| 合計 | 116,012 | 94,007 | ▲19.0% | 100.0% | 265,930 | ▲17.8% |

資料：USDA「Livestock and Meat International Trade Data」
注：枝肉重量ベース。

(調査情報部)

豪州

26年第1四半期の牛肉生産量は過去最高、中韓セーフガードの発動を懸念

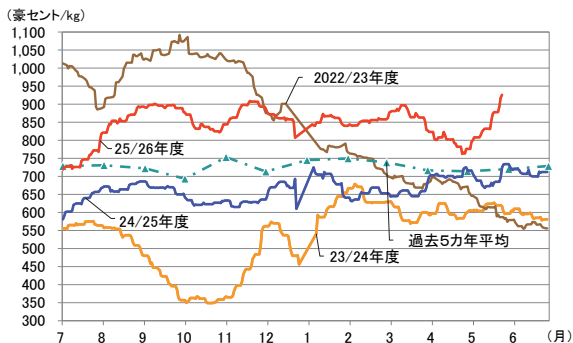
26年5月の若齢牛価格、降雨の影響で価格が急上昇

豪州食肉家畜生産者事業団（MLA）によると、肉牛生体取引価格の指標となる東部地区若齢牛指標（EYCI）価格は、直近2026年5月27日時点で1キログラム当たり926豪セント（1075円：1豪ドル＝116.12円^{（注1）}）と、22年11月以来の高水準を記録した（図1）。

MLAや現地報道によると、主要肉用牛生産地域であるニューサウスウェールズ（NSW）州、クイーンズランド（QLD）州が継続的な降雨に恵まれたことにより、1）乾季に入り牛の早期出荷を検討していたQLD州の生産者の多くが牛の留保を選択したこと、2）牧草の生育状況の改善により牧草肥育業者からの需要が高まったこと一で需給がひっ迫し、価格上昇につながったとされている。

（注1）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年5月末TTS相場。

図1 EYCI価格の推移

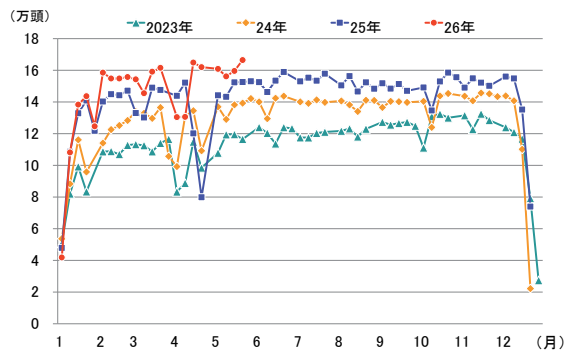


資料：MLA [National Livestock Reporting Service]
注1：年度は7月～翌6月。
注2：東部地区若齢牛指標（EYCI）価格は、東部3州（クイーンズランド州、ニューサウスウェールズ州、ビクトリア州）の主要家畜市場における若齢牛の加重平均取引価格で、家畜取引の指標となる価格（枝肉重量ベース）。肥育牛や経産牛価格とも相関関係にある。

26年第1四半期の牛肉生産量、第1四半期ベースで過去最高を記録

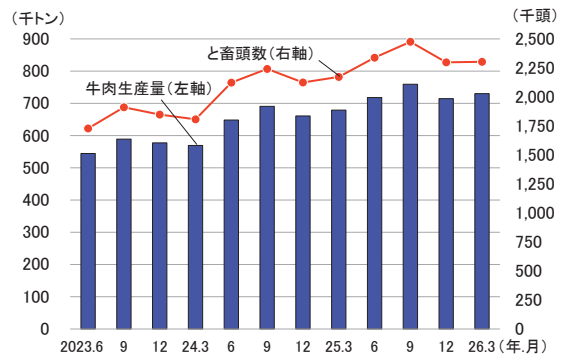
2026年5月第4週の成牛と畜頭数は、16万6446頭（前年同期比9.1%増）と引き続き高水準で推移しており、牛肉需要の高さを裏付けている（図2）。また、豪州統計局（ABS）が26年5月に公表した統計によると、26年第1四半期（1～3月）の成牛と畜頭数は230万頭（同6.0%増）、牛肉生産量は73万77トン（同7.5%増）となり、第1四半期の生産量としては過去最高となった（図3）。

図2 成牛と畜頭数の推移（週間報告）



資料：MLA [National Livestock Reporting Service]
注1：成牛のみ（子牛は含まない）。
注2：年末および3～4月ごろの減少は、祝日などの休暇に伴うと畜場休業によるもの。

図3 牛肉生産量およびと畜頭数の推移



資料：ABS
注1：四半期ごとの数値。
注2：生産量は枝肉重量ベース、と畜頭数は子牛を除く。

特筆すべきは、穀物肥育牛のと畜頭数が104万6717頭と史上初めて四半期ベースで100万頭を突破した点である^(注2)。穀物肥育牛のと畜頭数全体に占める割合は45.5%と上昇傾向で推移しており、牛肉サプライチェーンにおけるフィードロット部門の重要性は、より高まっていると言える。

(注2) 詳細については、海外情報「26年3月末のフィードロット飼養頭数は163万頭と過去最高を記録(豪州)」(https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_004362.html)をご参照ください。

26年4月の牛肉輸出量は堅調、中韓セーフガードの発動間近

豪州農林水産省(DAFF)によると、2026年4月の牛肉輸出量は14万943トン(前年同月比10.8%増)と、休日などによる稼働日数減の影響はあったものの、引き続き堅調に推移している(表)。

輸出先別に見ると、特に米国、中国、韓国向けが輸出の伸びをけん引している。米国向けは4万1173トン(同10.6%増)と、かなりの程度増加しており、引き続き安定した需要が見込まれている。

中国向けは、2万9583トン(同37.1%増)と大幅に増加した。中国商務省の告示によると、26年5月16日時点の1月からの豪州産牛肉輸入量は同国に対するセーフガード(以下「SG」という)枠(20万5000トン)^(注3)の80%に到達しており、6月中旬にもSG発動が見込まれている。また、報道によると、豪州連邦政府は中国当局と5月中旬に協議を行い、冷蔵牛肉のSG対象からの除外、他国の未使用割当枠の再配分といった制度見直しを要望したとされており、今後の措置見直しの動向に注目が集まっている。

また、韓国向けも、2万2365トン(同11.4%増)とかなり大きく増加した。韓豪FTAによる牛肉貿易において、26年5月29日時点の1月からの豪州産牛肉輸入量は、同国に対するSG枠(19万6050トン)^(注4)の79%に到達しており、これまでで最速となる7月中のSG発動が見込まれている。

なお、日本向けについては、2万504トン(同4.4%減)とやや減少している。豪州メディアが日本の輸入業者に取材したところ、現在は当面の需要分のみを輸入しており、

表 輸出先別牛肉輸出量の推移

(単位：トン)

| 国名 | 2025年 4月 | 26年 4月 | 前年同月比 (増減率) | 26年 (1～4月) | |
|-------|-------------|-----------|----------------|----------------|--------|
| | | | | 前年同期比 (増減率) | |
| 米国 | 37,213 | 41,173 | 10.6% | 146,957 | 13.7% |
| 中国 | 21,572 | 29,583 | 37.1% | 106,144 | 35.9% |
| 日本 | 21,444 | 20,504 | ▲4.4% | 78,954 | 3.8% |
| 韓国 | 20,076 | 22,365 | 11.4% | 79,518 | 22.8% |
| 東南アジア | 12,726 | 9,768 | ▲23.2% | 34,974 | ▲14.5% |
| 中東 | 3,031 | 3,022 | ▲0.3% | 10,142 | ▲8.4% |
| EU | 1,593 | 3,319 | 108.3% | 9,749 | 85.9% |
| その他 | 9,517 | 11,209 | 17.8% | 39,705 | 21.6% |
| 輸出量合計 | 127,172 | 140,943 | 10.8% | 506,143 | 15.5% |

資料：DAFF

注1：船積重量ベース。

注2：東南アジアは次の国の合計。フィリピン、タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシア。

注3：中東は次の国の合計。イラン、イラク、シリア、レバノン、ヨルダン、イスラエル、サウジアラビア、クウェート、バーレーン、カタール、オマーン、イエメン、エジプト、パレスチナ自治区、アラブ首長国連邦(七つの首長国のうち四つ(アブダビ、ドバイ、フジャイラ、ラアス・アル＝ハイマ))。

中韓に対するSGが発動し、日本に供給が振り向けられるのを待っている状況とコメントしたと報じられている。

(注3) 詳細については、海外情報「中国の新たなセーフガード措置に対する豪州の反応(豪州)」(https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_004262.html) をご参照ください。

(注4) 詳細については、海外情報「韓豪FTAは2014年内に発効予定、豪州牛肉産業に恩恵(豪州)」(https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_001150.html) をご参照ください。

(調査情報部)

中国

26年第1四半期の牛肉生産量はわずかに減少、価格は引き続き上昇傾向

26年1～3月の牛肉生産量、前年同期比1.0%減

中国国家统计局によると、2025年の牛肉生産量は、801万トン(前年比2.8%増)とわずかに増加した(図1)。現地関係者によると、1) 生乳価格の下落で乳用牛の淘汰が進んだこと、2) 24年から続く経営悪化の影響で肉用牛農家が繁殖雌牛を淘汰したことなどが要因とされている。

一方、26年第1四半期(1～3月)の牛肉生産量は、189万トン(前年同期比1.0%減)とわずかな減少に転じた。これは、繁殖雌牛の減少に加え、生産コスト上昇により肥育農家が子牛の導入を控えたことで、出荷頭数が減少したことなどが要因とされている。

26年の牛肉生産量について中国農業農村部は、同年4月に公表した「中国農業展望

報告(2026-2035)」(注1)(以下「展望報告」という)の中で、同様の理由から766万トン(前年比4.4%減)とやや減少すると見込んでいる。

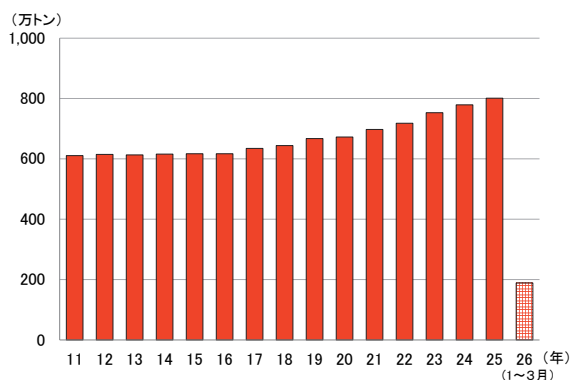
(注1) 海外情報「中国農業展望報告(2026-2035)を発表(牛肉編)(中国)」(https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_004378.html) をご参照ください。

26年5月の牛肉卸売価格、前年同月比6.1%高

中国商務部によると、2026年5月の牛肉卸売価格は1キログラム当たり65.3元(1555円:1元=23.82円(注2)、前年同月比6.1%高)となり、25年7月以降、すべての月で前年同月を上回っている(図2)。

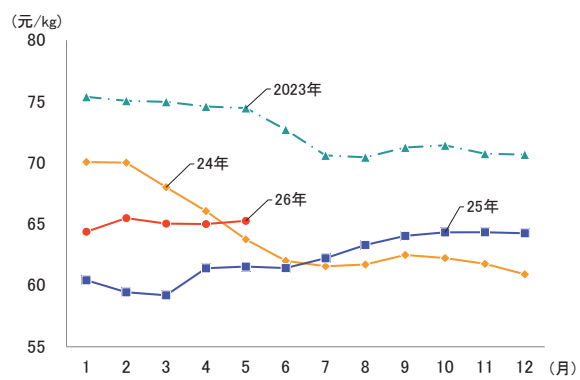
(注2) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年5月末TTS相場。

図1 牛肉生産量の推移



資料: 中国国家统计局

図2 牛肉卸売価格の推移



資料: 中国商務部

この要因について中国農業農村部は、26年5月に公表した「農産物需給動向分析月報(2026年4月)」の中で、肉用牛飼養頭数の減少による供給のひっ迫感により生体牛価格が上昇したためとしている。また、今後の牛肉価格については、気温の上昇に伴い消費が鈍化する傾向にあることから、価格は小幅な変動にとどまると見込んでいる。

26年1～4月の牛肉輸入量、冷凍・冷蔵ともに米国産が9割以上減少

2026年1～4月の牛肉輸入量を見ると、輸入の大部分を占める冷凍牛肉は105万5350トン（前年同期比21.7%増）と大幅

に増加した（表1）。

一方、冷蔵牛肉は2万2447トン（同4.9%減）とやや減少した（表2）。中国海関総署（GACC）による更新期限を迎えた米国内の中国向け牛肉輸出施設登録の更新が行われていなかったことから、米国産の輸入量が冷凍、冷蔵とも前年同期比で9割以上減少したものの、ブラジル産や豪州産の増加が、冷凍牛肉輸入の著しい増加につながった。輸入増加の要因としては、中国が同年1月1日よりセーフガード（SG）^{（注3）}措置を適用したことで、年後半における割当数量の超過を懸念した輸入業者が、前倒しで輸入したことなどが挙げられる。

表1 冷凍牛肉の輸入先別輸入量の推移

（単位：千トン）

| 国名 | 2025年 4月 | 26年 4月 | 前年同月比 (増減率) | 26年 (1～4月) | |
|----------|-------------|-----------|----------------|----------------|----------------|
| | | | | 前年同月比 (増減率) | 前年同月比 (増減率) |
| ブラジル | 90.1 | 100.8 | 11.9% | 612.9 | 53.6% |
| アルゼンチン | 33.0 | 36.1 | 9.4% | 176.3 | 18.5% |
| オーストラリア | 23.5 | 32.4 | 38.1% | 123.6 | 32.8% |
| ウルグアイ | 17.7 | 12.7 | ▲28.3% | 60.3 | ▲16.8% |
| 米国 | 10.8 | 0.2 | ▲98.5% | 0.7 | ▲98.1% |
| ボリビア | 10.7 | 3.7 | ▲65.5% | 18.4 | ▲47.6% |
| ニュージーランド | 9.5 | 8.3 | ▲12.9% | 35.7 | ▲23.7% |
| その他 | 7.4 | 8.0 | 7.8% | 27.6 | ▲19.2% |
| 合計 | 202.8 | 202.2 | ▲0.3% | 1,055.4 | 21.7% |

資料：「Global Trade Atlas」

注1：製品重量ベース。

注2：HSコード0202。

表2 冷蔵牛肉の輸入先別輸入量の推移

（単位：トン）

| 国名 | 2025年 4月 | 26年 4月 | 前年同月比 (増減率) | 26年 (1～4月) | |
|----------|-------------|-----------|----------------|----------------|----------------|
| | | | | 前年同月比 (増減率) | 前年同月比 (増減率) |
| 豪州 | 4,097 | 5,750 | 40.4% | 19,830 | 40.5% |
| 米国 | 1,895 | 0 | ▲100.0% | 0 | ▲100.0% |
| ニュージーランド | 425 | 504 | 18.6% | 1,892 | ▲2.1% |
| アルゼンチン | 122 | 119 | ▲2.4% | 440 | ▲44.1% |
| ベラルーシ | 81 | 20 | ▲75.6% | 175 | ▲31.8% |
| ウルグアイ | 0 | 41 | — | 41 | ▲34.8% |
| その他 | 0 | 64 | — | 68 | 6.4% |
| 合計 | 6,597 | 6,499 | ▲1.5% | 22,447 | ▲4.9% |

資料：「Global Trade Atlas」

注1：製品重量ベース。

注2：HSコード0201。

(注3) 海外情報「中国の新たなセーフガード措置に対する中国国内の反応（中国）」(https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_004275.html) および「中国の新たなセーフガード措置に対する豪州の反応（豪州）」(https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_004262.html) をご参照ください。

26年の牛肉輸入量（冷凍および冷蔵）について展望報告では、1) SGの影響により、牛肉輸入の増加傾向が抑制されること、

2) 国際市場における牛肉価格の高騰により、国内外の価格差が縮小していること一などから、269万トン（前年比3.9%減）とやや減少すると見込んでいる。

(調査情報部)

豚 肉

E U

26年の豚肉生産量は前年比1.0%減と予測

26年2月の豚肉生産量は前年同月比1.7%増

欧州委員会によると、2026年2月の豚肉生産量（EU27カ国）は183万8000トン（前年同月比1.7%増）となり、前年同月をわずかに上回った（図1、表1）。1頭当たりの枝肉重量は前年同月並み（同0.1%増）であったが、豚と畜頭数が1871万頭（同1.6%増）と前年同月をわずかに上回ったことが生産量

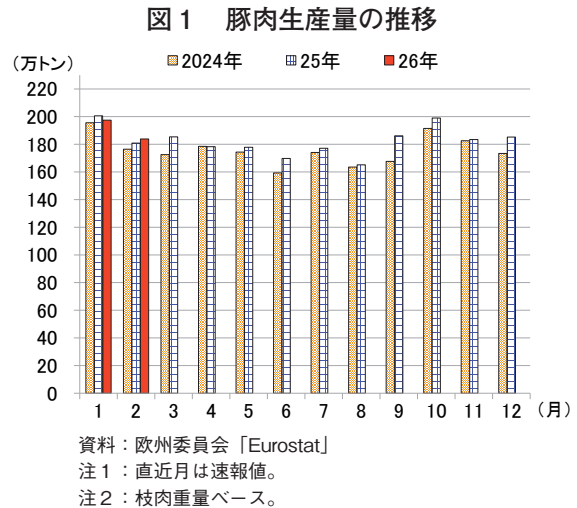


表1 主要生産国別豚肉生産量

(単位：万トン)

| 国名 | 2025年 2月 | 26年 2月 | 前年同月比 (増減率) | 26年 (1～2月) | |
|-------|-------------|-----------|----------------|----------------|-------|
| | | | | 前年同期比 (増減率) | |
| スペイン | 46.1 | 49.2 | 6.8% | 99.3 | 2.1% |
| ドイツ | 35.4 | 34.9 | ▲1.3% | 73.3 | ▲0.9% |
| フランス | 16.6 | 17.0 | 2.5% | 35.5 | ▲1.0% |
| ポーランド | 15.3 | 15.9 | 4.0% | 33.9 | 2.1% |
| オランダ | 12.7 | 11.0 | ▲13.7% | 23.5 | ▲9.9% |
| デンマーク | 11.6 | 12.6 | 8.4% | 25.9 | 5.8% |
| イタリア | 10.9 | 10.6 | ▲2.3% | 22.0 | ▲3.6% |
| その他 | 32.3 | 32.6 | 0.9% | 67.8 | 0.3% |
| 合計 | 180.8 | 183.8 | 1.7% | 381.3 | ▲0.0% |

資料：欧州委員会「Eurostat」

注：枝肉重量ベース。

の増加につながった。26年累計（1～2月）の生産量は、前年並みの381万3000トン（前年同期並み）であった。

EU27カ国の生産が減少傾向にある中、スペインは、生産量の半分を仕向ける国内市場の需要が好調で、25年に生産量を大きく伸ばし、26年に入ってもその増産傾向が継続していることから、2月は前年同月を6.8%上回った。

26年4月の豚枝肉卸売価格は前年同月を大幅に下回る

欧州委員会によると、2026年4月の豚枝肉卸売価格（EU27カ国）は、1キログラム当たり1.68ユーロ（314円：1ユーロ＝187.16円^{（注1）}、前年同月比17.0%安）と、前年同月を大幅に下回った（図2）。

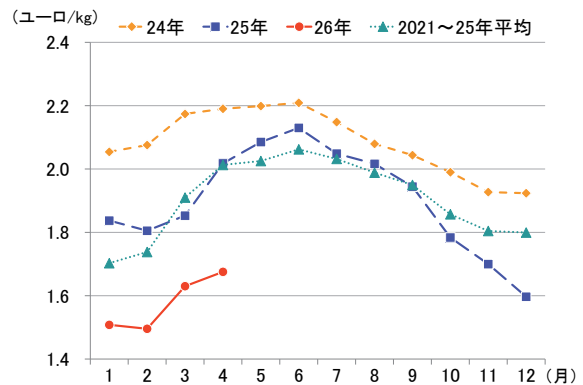
25年に増加した生産量が維持されていることに加え、スペインにおける野生イノシシのアフリカ豚熱（ASF）の継続発生^{（注2）}や、中国によるEU産豚肉に対するアンチダンピング関税の賦課^{（注3）}に伴いアジア向けから域内に出荷先が変更され、域内の需給が緩和したことが価格下落要因となっている。

（注1）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年5月末TTS相場。

（注2）海外情報「カタール・ニューヤ州で野生イノシシのアフリカ豚熱感染確認が続く、豚肉価格は軟化傾向（EU）」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_004295.html）をご参照ください。

（注3）海外情報「EU産豚肉に対し中国がアンチダンピング関税賦課を開始（EU、中国）」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_004272.html）をご参照ください。

図2 豚枝肉卸売価格の推移



資料：欧州委員会「Meat Market Observatory-Pigmeat」
注：EU（CLASS E）平均価格。

26年3月の豚肉輸出量は前年同月比9.2%減

欧州委員会によると、2026年3月のEU域外への豚肉輸出量（EU27カ国）は、17万1676トン（前年同月比9.2%減）と前年同月からかなりの程度減少した（表2）。中国

表2 輸出先別豚肉輸出量（EU域外向け）

（単位：トン）

| 国名 | 2025年 3月 | 26年 3月 | 前年同月比 (増減率) | 26年 (1～3月) | |
|-------|-------------|-----------|----------------|----------------|----------------|
| | | | | 前年同月比 (増減率) | 前年同月比 (増減率) |
| 韓国 | 22,653 | 30,052 | 32.7% | 92,135 | 48.0% |
| 中国 | 43,955 | 28,274 | ▲35.7% | 89,121 | ▲29.9% |
| 英国 | 25,916 | 24,281 | ▲6.3% | 74,848 | ▲7.1% |
| 日本 | 25,089 | 13,960 | ▲44.4% | 47,300 | ▲34.2% |
| フィリピン | 9,856 | 7,876 | ▲20.1% | 27,118 | ▲4.2% |
| ベトナム | 3,610 | 6,234 | 72.7% | 20,720 | 148.7% |
| その他 | 57,914 | 60,999 | 5.3% | 190,560 | 16.3% |
| 合計 | 188,993 | 171,676 | ▲9.2% | 541,802 | ▲0.1% |

資料：「Global Trade Atlas」

注1：製品重量ベース。

注2：HSコードは0203。

によるアンチダンピング関税の影響で、同国向け輸出が同35.7%減、スペインでのASF発生に伴う輸入停止措置により、日本向けが同44.4%減、フィリピン向けが同20.1%減とそれぞれ大幅に減少した。一方、自国での家畜疾病の影響により生産量が減少している韓国やベトナムへの輸出は大幅に増加した。

26年の豚肉生産量は減少見込み

2026年5月に更新された欧州委員会の年次予測では、26年の豚肉生産量は、前年から

1.0%減少すると見込まれている。

米国農務省（USDA）によれば、スペインからの豚肉輸出が減少し、同国を中心に豚価が低落し養豚経営が悪化している。これに伴い、域内における子豚の主要供給国であるオランダからの子豚輸出頭数が減少し、オランダの繁殖雌豚飼養頭数の減少が見込まれることが、26年の予測生産量を減少させた要因の一つであるとみられる。

(調査情報部)

チリ

26年1～3月の豚肉生産量は前年同期並みの推移ながら、輸出量は減少

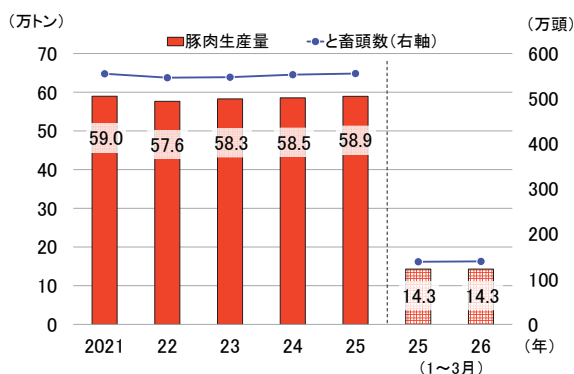
26年1～3月の豚肉生産量は前年同期並み

チリ農業省農業政策・調査局（ODEPA）によると、2026年1～3月の豚と畜頭数は139万6000頭（前年同期比0.6%増）と前年同期をわずかに上回ったものの、豚肉生産量は14万3000トン（同0.0%減）と前年同期並みにとどまった（図1）。

26年1～3月の豚肉輸出量は前年同期比5.9%減

2026年1～3月の豚肉輸出量は、4万4181トン（前年同期比5.9%減）と前年同期をやや下回った（表）。輸出先別に見ると、輸出量全体の4割弱を占める中国向けは1万5908トン（同7.4%減）と、前年同期をかなりの程度下回った。一方で、輸出量全体の約2割を占める日本向けは9484トン（同12.9%増）とかなり大きく上回り、同じく約2割を占める韓国向けは8598トン（同7.5%増）、1割弱を占めるコスタリカ向けは3454トン（同6.6%増）と、いずれもかなりの程度上回った。輸出先上位の日本や韓国などから強い引き合いがあったものの、最大の輸出先であり、国内の豚肉供給量が十分にあるとされる中国からの引き合いが弱かったことなどから、全体の輸出量は減少した。

図1 豚肉生産量および豚と畜頭数の推移



資料：ODEPA
注：枝肉重量ベース。

表 輸出先別豚肉輸出の推移

| 国名 | 2025年（1～3月） | | | 26年（1～3月） | | | 前年同期比（増減率） | | |
|-------|-------------|---------------|----------------|-------------|---------------|----------------|------------|--------|-------|
| | 輸出量 （トン） | 輸出額 （千米ドル） | 単価 （米ドル/kg） | 輸出量 （トン） | 輸出額 （千米ドル） | 単価 （米ドル/kg） | 輸出量 | 輸出額 | 単価 |
| 中国 | 17,171 | 26,841 | 1.56 | 15,908 | 22,571 | 1.42 | ▲7.4% | ▲15.9% | ▲9.2% |
| 日本 | 8,401 | 33,850 | 4.03 | 9,484 | 36,533 | 3.85 | 12.9% | 7.9% | ▲4.4% |
| 韓国 | 7,997 | 36,473 | 4.56 | 8,598 | 41,766 | 4.86 | 7.5% | 14.5% | 6.5% |
| コスタリカ | 3,239 | 10,613 | 3.28 | 3,454 | 11,802 | 3.42 | 6.6% | 11.2% | 4.3% |
| コロンビア | 4,054 | 10,699 | 2.64 | 2,769 | 6,773 | 2.45 | ▲31.7% | ▲36.7% | ▲7.3% |
| ドイツ | 649 | 3,091 | 4.76 | 611 | 2,761 | 4.52 | ▲5.8% | ▲10.7% | ▲5.1% |
| メキシコ | 1,191 | 2,228 | 1.87 | 598 | 1,354 | 2.26 | ▲49.8% | ▲39.2% | 21.0% |
| 米国 | 644 | 3,555 | 5.52 | 437 | 2,286 | 5.23 | ▲32.2% | ▲35.7% | ▲5.3% |
| その他 | 3,591 | 10,789 | 3.00 | 2,321 | 7,336 | 3.16 | ▲35.4% | ▲32.0% | 5.2% |
| 合計 | 46,937 | 138,139 | 2.94 | 44,181 | 133,182 | 3.01 | ▲5.9% | ▲3.6% | 2.4% |

資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード0203。

注2：輸出量は製品重量ベース。

26年4月の肉豚生産者販売価格は前年同月比2.4%安

ODEPAによると、2026年4月の肉豚生産者販売価格は、1キログラム当たり1.20米ドル（192円：1米ドル＝160.39円^注、前年同月比2.4%安）と前年同月をわずかに下回った（図2）。

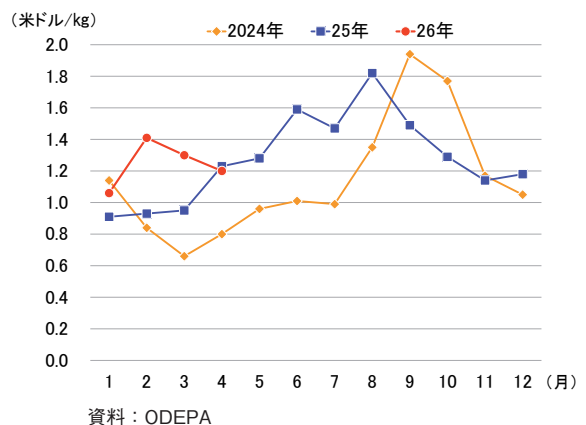
価格の推移を見ると、25年9月以降は下落基調であったが、年明けの26年2月に反発して一度上昇した。しかし、その後2カ月連続で再び下落を続けた結果、前年末の水準にまで戻っている。

肉豚生産において主要な飼料となるトウモロコシについて、米国農務省（USDA）によると、チリ国内の収穫面積は、高い生産コストと輸入穀物との激しい競争により、減少傾向にあるとされている。また、その結果、同国のトウモロコシ生産量は漸減傾向が続くとみている。そうした中、同国ではトウモロコシ

シ消費量の約8割をアルゼンチンやパラグアイなどからの輸入に頼っているため、今後、国際市場でのトウモロコシ価格の変動がチリの肉豚生産に与える影響は小さくないと考えられる。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年5月末のTTS相場。

図2 肉豚生産者販売価格の推移



（調査情報部）

鶏肉

米 国

2026年の鶏肉需要は引き続き堅調に推移する見込み

26年4月の鶏肉生産量、前年同月比 5.1%増

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、2026年4月の鶏肉生産量は、生体重量、処理羽数ともに増加したことなどから、188万6000トン（前年同月比5.1%増）と前年同月からやや増加した（表1、図1）。また、26年1～4月の鶏肉生産量についても、同様に733万トン（前年同期比4.1%増）と前年同期からやや増加した。26年の鶏肉生産量についてUSDAは、2229万2000トン（前年比2.4%増）と予測している。

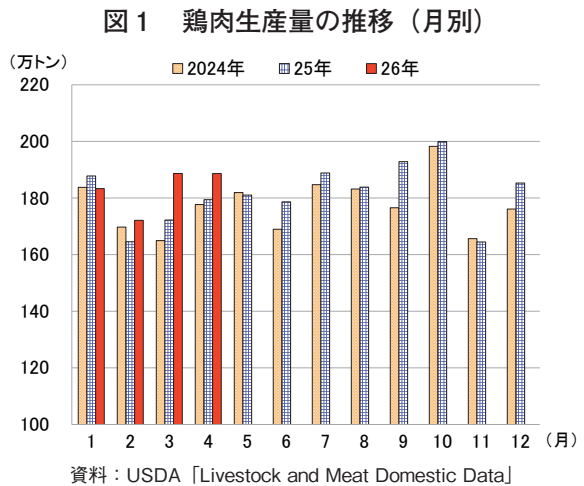


表1 鶏肉生産量の推移

| 項目 | 2025年 4月 | 26年 4月 | 26年 | | |
|---------------|-------------|-----------|----------------|---------|----------------|
| | | | 前年同月比 (増減率) | (1～4月) | 前年同期比 (増減率) |
| 生産量（万トン） | 179.4 | 188.6 | 5.1% | 733.0 | 4.1% |
| 処理羽数（百万羽） | 796.5 | 825.6 | 3.6% | 3,212.6 | 3.0% |
| 生体重量（キログラム/羽） | 2.97 | 3.01 | 1.2% | 3.01 | 0.9% |

資料：USDA [Livestock and Meat Domestic Data]

注1：連邦食肉検査済みのもの。

注2：生産量は可食処理ベース（骨付き）。

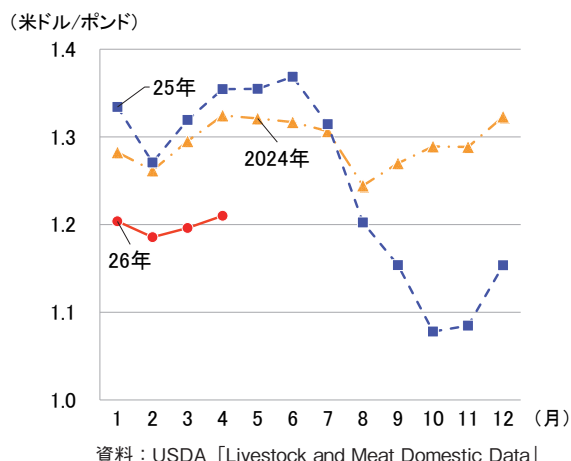
26年4月の鶏肉卸売価格、前年同月 比10.7%安

USDA/ERSによると、2026年4月の鶏肉卸売価格は1ポンド当たり1.21米ドル（1キログラム当たり428円：1米ドル＝160.39円^(注)、前年同月比10.7%安）と前年同月をかなりの程度下回った（図2）。25年の下期以降、鶏肉生産量の増加に伴う供給

過多などから、卸売価格は下落傾向で推移していたものの、食肉の中で比較的安価な鶏肉への引き合いは強く、同年10月を底値に上昇傾向にある。26年の卸売価格についてUSDAは、1.22米ドル（前年比431円、前年比2.3%安）と予測している。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年5月末TTS相場。

図2 鶏肉の卸売価格の推移



26年3月の鶏肉輸出量、前年同月比4.1%増

USDA/ERSによると、2026年3月の鶏肉輸出量は26万8419トン（前年同月比4.1%増）と前年同月からやや増加した（表2）。輸出先別に見ると、最大の輸出先であり、輸出量の2割強を占めるメキシコ向けは、前年同月並みとなった。第2位のフィリピン向けは、同23.8%減と大幅に減少した。同国ではアフリカ豚熱（ASF）の発生により豚肉

生産量が大きく減少し、国内の食肉価格が高騰したため、24年6月に鶏肉の輸入関税の一時的な引き下げや高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）発生国に対する貿易制限措置の緩和を行ったことにより、25年3月の輸入量が増加していた。26年3月の減少はその反動によるものとみられる。

26年1～3月の累計では、輸出先上位のメキシコ、フィリピン向けなどが減少したものの、アンゴラ、ベトナム、ガーナ向けが増加したことから、全体では前年同期からわずかに増加した。

26年の輸出量についてUSDAは、同年5月18日に公表した需給見通しにおいて、国際市場での競合状況や輸出拡大の余地が限られていることなどから、299万3000トン（前年比1.1%減）とわずかに減少すると予測している。

一方、中国は同年5月15日、USDAによりHPAI非発生地域と認定された米国の州からの家きん肉の輸入停止措置を解除しており、今後の動向が注視される。

表2 輸出先別鶏肉輸入量の推移

（単位：トン）

| 国名 | 2025年 3月 | 26年 3月 | 前年同月比 (増減率) | シェア | 26年 (1～3月) | |
|-------|-------------|-----------|----------------|--------|----------------|--------|
| | | | | | 前年同期比 (増減率) | |
| メキシコ | 57,358 | 57,473 | 0.2% | 21.4% | 172,170 | ▲3.9% |
| フィリピン | 22,930 | 17,482 | ▲23.8% | 6.5% | 42,679 | ▲0.8% |
| キューバ | 19,299 | 16,495 | ▲14.5% | 6.1% | 45,046 | ▲36.2% |
| カナダ | 14,286 | 13,803 | ▲3.4% | 5.1% | 41,178 | ▲4.9% |
| アンゴラ | 6,610 | 13,152 | 99.0% | 4.9% | 28,504 | 53.0% |
| ベトナム | 8,505 | 11,820 | 39.0% | 4.4% | 37,900 | 79.2% |
| ガーナ | 6,382 | 11,473 | 79.8% | 4.3% | 24,427 | 40.8% |
| グアテマラ | 11,562 | 11,460 | ▲0.9% | 4.3% | 35,317 | 1.7% |
| 台湾 | 6,576 | 10,141 | 54.2% | 3.8% | 37,774 | ▲23.2% |
| その他 | 104,456 | 105,120 | 0.6% | 39.2% | 278,574 | 6.7% |
| 合計 | 257,963 | 268,419 | 4.1% | 100.0% | 743,568 | 0.7% |

資料：USDA 「Livestock and Meat International Trade Data」

注1：製品重量ベース。

注2：もみじ（鶏足）を除く。

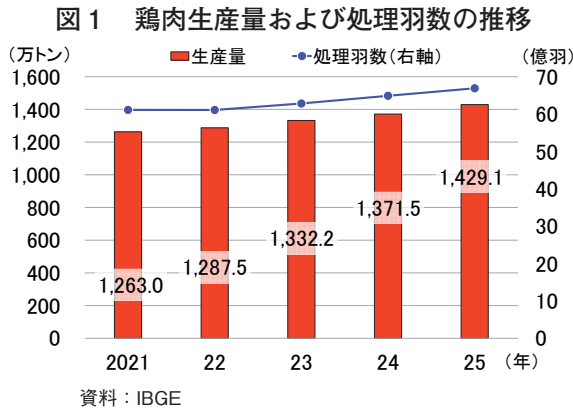
（調査情報部）

ブラジル

26年1～4月の鶏肉輸出量は増加傾向で推移

25年の鶏肉生産量は前年比4.2%増

ブラジル地理統計院（IBGE）によると、2025年の鶏処理羽数は66億9003万羽（前年比3.1%増）、鶏肉生産量は1429万1000トン（同4.2%増）と、いずれも過去最大を記録した前年をやや上回った（図1）。



26年1～4月の鶏肉輸出量は前年同期比3.8%増

ブラジル開発商工サービス省貿易局（SECEX）によると、2026年1～4月の鶏肉輸出量は177万8589トン（前年同期比3.8%増）と前年同期をやや上回った（表）。

現地メディアによると、中東情勢の影響を受け、ブラジルから中東向けの輸出量は減少しているものの、食肉加工業者はトラックによる陸上輸送などを用いた代替ルートを使い、同地域への供給維持に努めているという。

一方、日本向けについては、15万661トン（同23.4%増）と前年同期を大幅に上回った。

なお、26年5月時点で、日本はブラジルでの高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）の発生地域であるマツグロソ州およびパラ州のそれぞれの一部地域から、家きん肉

表 輸出先別鶏肉輸出量および輸出額

| 国名 | 2025年（1～4月） | | | 26年（1～4月） | | | 前年同期比（増減率） | | |
|----------|-------------|-----------|------------|-----------|-----------|------------|------------|--------|-------|
| | 輸出量（トン） | 輸出額（千米ドル） | 単価（米ドル/kg） | 輸出量（トン） | 輸出額（千米ドル） | 単価（米ドル/kg） | 輸出量 | 輸出額 | 単価 |
| 中国 | 192,274 | 454,790 | 2.37 | 186,907 | 492,911 | 2.64 | ▲2.8% | 8.4% | 11.5% |
| 日本 | 122,127 | 235,270 | 1.93 | 150,661 | 375,709 | 2.49 | 23.4% | 59.7% | 29.4% |
| サウジアラビア | 137,862 | 338,950 | 2.46 | 141,630 | 334,202 | 2.36 | 2.7% | ▲1.4% | ▲4.0% |
| アラブ首長国連邦 | 150,452 | 302,619 | 2.01 | 132,883 | 252,237 | 1.90 | ▲11.7% | ▲16.6% | ▲5.6% |
| 南アフリカ | 105,736 | 70,917 | 0.67 | 127,625 | 77,782 | 0.61 | 20.7% | 9.7% | ▲9.1% |
| フィリピン | 95,647 | 81,646 | 0.85 | 108,991 | 96,112 | 0.88 | 14.0% | 17.7% | 3.3% |
| メキシコ | 68,614 | 164,073 | 2.39 | 70,710 | 154,314 | 2.18 | 3.1% | ▲5.9% | ▲8.7% |
| 韓国 | 64,969 | 121,030 | 1.86 | 66,585 | 146,029 | 2.19 | 2.5% | 20.7% | 17.7% |
| その他 | 775,119 | 1,315,941 | 1.70 | 792,597 | 1,314,577 | 1.66 | 2.3% | ▲0.1% | ▲2.3% |
| 合計 | 1,712,800 | 3,085,237 | 1.80 | 1,778,589 | 3,243,875 | 1.82 | 3.8% | 5.1% | 1.3% |

資料：SECEX

注1：HSコード0207.11、0207.12、0207.13、0207.14の合計。

注2：輸出量は製品重量ベース。

などの輸入を停止している^(注1)。24～26年における同国からの日本向け輸出货量のうちパラ州からの実績は無く、また、マツグロツ州からは数パーセントにとどまっており、現時点でこれら2州からの輸入停止措置による日本への影響は限定的と考えられる。しかし、サンパウロ大学農学部応用経済研究所(CEPEA)によると、5～7月が同国における渡り鳥の飛来時期であるため、HPAIに最も警戒する必要があるとしており、今後の動向に注視が必要である。

(注1)「生きた家さん、家さん肉等の輸入停止及び停止解除措置について(農林水産省動物検疫所)」(<https://www.maff.go.jp/aqs/topix/im/hpai.html#burazilkakinnniku>)

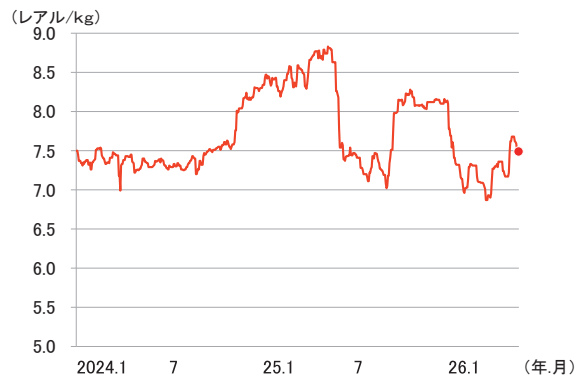
26年前半の鶏肉卸売価格は前年同期より低い水準で推移

CEPEAによると、直近(2026年5月22日時点)のブラジルの鶏肉卸売価格(サンパウロ州)は、1キログラム当たり7.49リアル(238円: 1リアル=31.72円^(注2)、前年同日比13.2%安)となった(図2)。26年前半の鶏肉卸売価格の推移について、年初は不需要期に該当するため下降傾向で推移

していたが、中東情勢による輸送コストの上昇を受け、鶏肉業界が販売価格の改定を行ったことにより、3月末頃から上昇トレンドに転じた。4月以降は引き続き輸送コストの上昇に加え、国内需要の増加も相まって上昇傾向で推移しているものの、前年同期と比較すると低い水準となっている。

(注2)三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年5月末TTS相場および現地参考為替相場(Selling)。

図2 サンパウロ州鶏肉卸売価格(丸鶏・冷蔵)の毎日の推移



資料: CEPEA

注1: 名目価格。

注2: 図中の最新のマーカーは、2026年5月22日時点の1kg当たり7.49リアルを示す。

(調査情報部)

牛乳・乳製品

米 国

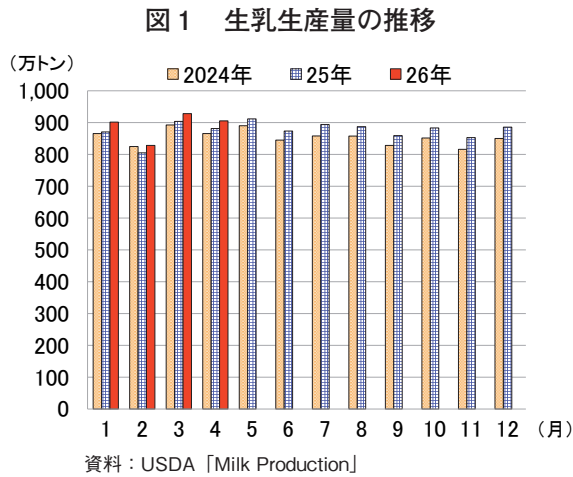
26年3月の乳製品輸出量、チーズやバターが前年同月を上回る

26年4月の生乳生産量は前年同月比2.7%増

米国農務省全国農業統計局(USDA/NASS)によると、2026年4月の乳用経産

牛飼養頭数は964万5000頭(前年同月比2.0%増)とわずかに増加した。同月の生乳生産量は、乳用経産牛飼養頭数および1頭当たり乳量(同0.7%増)の増加により、905万トン(同2.7%増)とわずかに増加した

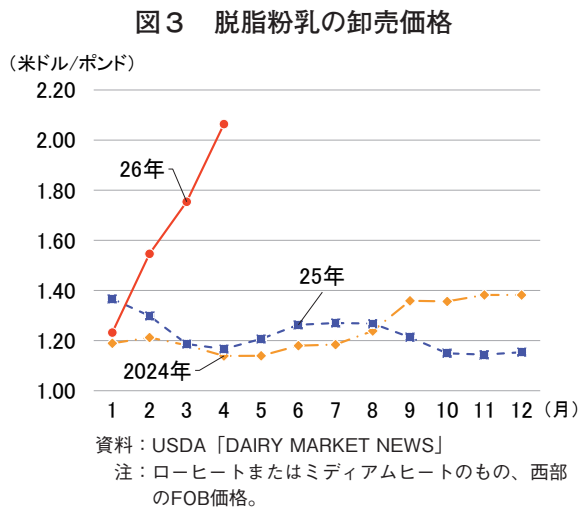
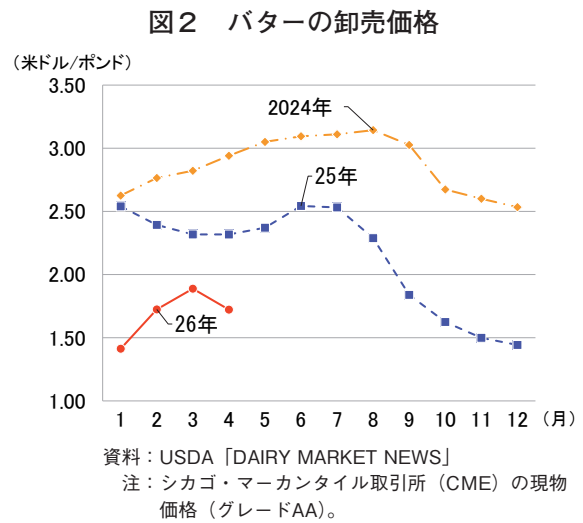
(図1)。米国農務省経済調査局 (USDA/ERS) によると、26年の生乳生産量は1億677万6000トン (前年比1.6%増) と見込まれている。



26年4月のバター卸売価格は前年同月比25.7%安

米国農務省農業マーケティング局 (USDA/AMS) によると、2026年4月のバターの卸売価格は、生乳生産量や生乳に含まれる乳脂肪分の増加により需給が緩和し、1ポンド当たり1.72米ドル (1キログラム当たり608円：1米ドル = 160.39円^(注)、前年同月比25.7%安) と前年同月を大幅に下回った (図2)。一方、脱脂粉乳の卸売価格は、国内供給のひっ迫から急騰しており、同月は同2.06米ドル (同728円、同77.0%高) と前年同月を大幅に上回った (図3)。現地情報によると、生乳がヨーグルトや高たんぱく乳製品といったより収益性の高い製品に仕向けられたことにより、脱脂粉乳の生産量が減少したとみられている。

(注) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均為替相場」の2026年5月末TTS相場。



26年3月の乳製品輸出量、チーズやバターは増加、脱脂粉乳は減少

USDA/ERSによると、2026年3月の乳製品輸出量は、乳脂肪分ベースでは前年同月比47.4%増と大幅に、無脂乳固形分ベースでは同2.0%増とわずかに、それぞれ増加した。

品目別に見ると、チーズやバターなどの製品において前年同月を上回った (表)。チーズは、メキシコや韓国といった主要輸出先における旺盛な需要から、6万3435トン (前年同月比28.7%増) と大幅に増加した。また、国内需給の緩和により価格が軟化している

バターは、中東・北アフリカ向け、韓国向け、メキシコ向けなどがけん引し、1万1337トン（同85.5%増）と大幅に増加した。ホエイは、カナダ、メキシコ向けが増加し、2万4491トン（同37.1%増）と大幅に増加した。

一方、脱脂粉乳は、供給減や価格高騰の影響により5万9522トン（同7.8%減）とかなりの程度減少した。ホエイたんぱく濃縮物（WPC）は、国内の需要が堅調な中で9942トン（同23.9%減）と大幅に減少した。

表 主要乳製品輸出量の推移

（単位：トン）

| 品目 | 2025年 3月 | 26年 3月 | 前年同月比 (増減率) | 26年 (1～3月) | |
|------|-------------|-----------|----------------|----------------|----------------|
| | | | | 前年同期比 (増減率) | 前年同期比 (増減率) |
| チーズ | 49,288 | 63,435 | 28.7% | 173,529 | 23.2% |
| 脱脂粉乳 | 64,575 | 59,522 | ▲7.8% | 167,640 | 4.9% |
| 乳糖 | 33,926 | 35,705 | 5.2% | 99,016 | 3.8% |
| ホエイ | 17,865 | 24,491 | 37.1% | 65,703 | 35.6% |
| バター | 6,111 | 11,337 | 85.5% | 30,639 | 110.6% |
| WPC | 13,062 | 9,942 | ▲23.9% | 25,103 | ▲22.3% |

資料：USDA 「Dairy Data」
注：製品重量ベース。

（調査情報部）

E U

26年3月の生乳出荷量は4.9%増と増加傾向が継続

26年第1四半期の生乳出荷量は前年同期比5.1%増

欧州委員会によると、2026年3月の生乳出荷量（EU27カ国）は、前年同月比4.9%増

の1351万トンと前年同月をやや上回った（表1）。主要生産国ではいずれも前年同月を上回り、増産基調が継続している。他方で、現地報道によると、4月の牧草の状況は西欧で生育条件が良好であったものの、東欧では

表1 主要生産国別生乳出荷量の推移

（単位：万トン）

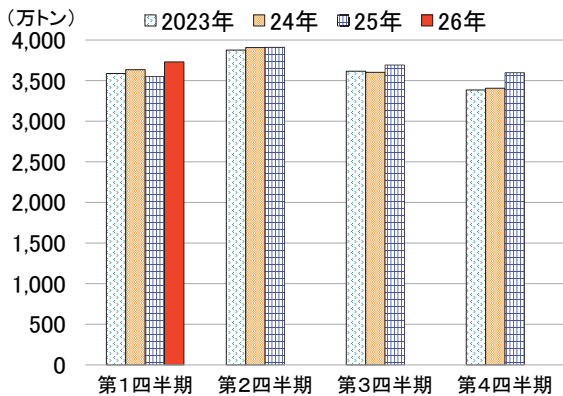
| 国名 | 2025年 3月 | 26年 3月 | 前年同月比 (増減率) | 26年 1～3月 | |
|-------|-------------|-----------|----------------|----------------|----------------|
| | | | | 前年同期比 (増減率) | 前年同期比 (増減率) |
| ドイツ | 278 | 298 | 7.1% | 845 | 6.9% |
| フランス | 213 | 224 | 5.2% | 637 | 5.8% |
| オランダ | 119 | 126 | 6.1% | 361 | 5.8% |
| イタリア | 117 | 126 | 8.3% | 353 | 8.3% |
| ポーランド | 120 | 124 | 3.3% | 351 | 3.1% |
| その他 | 441 | 453 | 2.7% | 1,184 | 2.8% |
| 合計 | 1,287 | 1,351 | 4.9% | 3,730 | 5.1% |

資料：欧州委員会「Eurostat」
注1：直近月は速報値。
注2：データが未公表のルクセンブルグを除く。
注3：四捨五入により、各国の計と合計欄は一致しないことがある。

低温や平年を下回る降水量により一部で生育に遅れが生じており、同月の生乳生産も生産国ごとにばらつきが見られるという。なお、第1四半期の生乳出荷量は、前年同期比5.1%増の3730万トンとなった（図1）。

同委員会によると、同年3月の乳脂肪分は4.21%、無脂乳固形分は3.48%と、前年同月を0.02ポイント、0.01ポイント、それぞれ上回った。

図1 生乳出荷量の推移



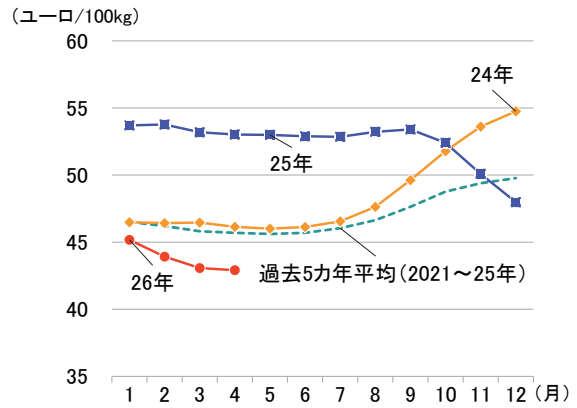
資料：欧州委員会「Eurostat」
注1：直近月は速報値。
注2：データが未公表のルクセンブルグを除く。

26年4月の生乳取引価格、前月割れが継続

欧州委員会によると、2026年4月の生乳取引価格（EU27カ国平均）は、100キログラム当たり42.91ユーロ（1キログラム当たり80円：1ユーロ＝187.16円（注）、前年同月比19.1%安）となった（図2）。25年10月以降、生乳出荷量の増加が価格の下落圧力となり、7カ月連続で前月を下回ったが、4月は乳製品価格が安定して推移したことから、下落幅は前月に比べて縮小した。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年5月末TTS相場。

図2 生乳取引価格の推移

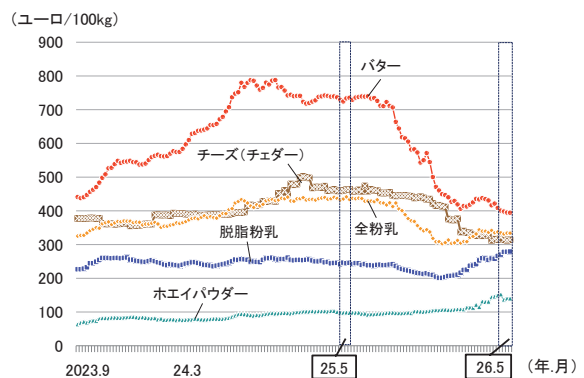


資料：欧州委員会「Milk market observatory」
注1：直近月は推定値。
注2：データが未公表のルクセンブルグを除く。

バターとチーズ価格は前年同期を下回るも、脱脂粉乳は上昇傾向が継続

欧州委員会によると、2026年5月24日の週の乳製品価格（EU27カ国平均）は、バターが100キログラム当たり394ユーロ（1キログラム当たり737円、前年同期比46.4%安）、全粉乳が同334ユーロ（同625円、同23.0%安）、チーズが同314ユーロ（同588円、同32.2%安）といずれも前年同期を大幅に下回った（図3）。一方、脱脂粉乳は同279ユーロ（同522円、同13.6%高）、ホエイパウダーは同141ユーロ（同264円、同43.8%高）と、いずれも前年同期を上回り、

図3 乳製品価格の推移



資料：欧州委員会「Milk market observatory」

脱脂粉乳は前月からの上昇傾向が継続している。

26年第1四半期の主要乳製品輸出品量、全粉乳を除き前年同期を上回る

欧州委員会によると、2026年1～3月のEU域外向け乳製品輸出品量は、バターが前年同期比33.0%増、脱脂粉乳が同5.7%増、チーズが同0.9%増とそれぞれ前年同期を上回った（表2）。バターについては、アイルランドからの米国向け輸出が1万7000トン（同

2倍）と大幅に増加したことが寄与している。脱脂粉乳は、米国やニュージーランドからの供給減少に加え、中東からの需要増加を背景として、EU産に対する国際市場での需要が拡大し輸出が増加している。一方、全粉乳は同19.0%減と前年同期を大幅に下回った。同委員会は、26年春季の短期的需給見通しで、価格競争力の低下や主要市場での需要減退により、前年に大幅に減少した全粉乳の生産量と輸出品量は、26年もさらに減少すると予測している。

表2 主な乳製品の輸出品量の推移

（単位：トン）

| バター | | | | 脱脂粉乳 | | | |
|------|-----------------|---------------|----------------|---------|---------------|---------------|----------------|
| 輸出先 | 2025年 (1～3月) | 26年 (1～3月) | 前年同期比 (増減率) | 輸出先 | 25年 (1～3月) | 26年 (1～3月) | 前年同期比 (増減率) |
| 米国 | 10,472 | 19,334 | 84.6% | エジプト | 10,015 | 22,680 | 126.5% |
| 英国 | 10,687 | 10,561 | ▲1.2% | アルジェリア | 23,081 | 21,983 | ▲4.8% |
| 中国 | 3,342 | 3,441 | 3.0% | インドネシア | 14,526 | 15,582 | 7.3% |
| 韓国 | 3,230 | 2,756 | ▲14.7% | サウジアラビア | 7,620 | 10,856 | 42.5% |
| モロッコ | 706 | 2,118 | 200.0% | マレーシア | 8,071 | 9,718 | 20.4% |
| その他 | 23,220 | 30,475 | 31.2% | その他 | 123,406 | 116,508 | ▲5.6% |
| 合計 | 51,657 | 68,685 | 33.0% | 合計 | 186,719 | 197,327 | 5.7% |

| チーズ | | | | 全粉乳 | | | |
|-----|---------------|---------------|----------------|------|---------------|---------------|----------------|
| 輸出先 | 25年 (1～3月) | 26年 (1～3月) | 前年同期比 (増減率) | 輸出先 | 25年 (1～3月) | 26年 (1～3月) | 前年同期比 (増減率) |
| 英国 | 106,199 | 109,541 | 3.1% | オマーン | 13,190 | 10,196 | ▲22.7% |
| 米国 | 34,768 | 31,998 | ▲8.0% | 英国 | 3,855 | 3,134 | ▲18.7% |
| 日本 | 19,996 | 21,228 | 6.2% | レバノン | 995 | 1,844 | 85.3% |
| スイス | 18,408 | 18,626 | 1.2% | 中国 | 2,888 | 1,744 | ▲39.6% |
| 韓国 | 16,405 | 14,692 | ▲10.4% | セネガル | 1,573 | 1,570 | ▲0.2% |
| その他 | 137,509 | 140,151 | 1.9% | その他 | 24,501 | 19,594 | ▲20.0% |
| 合計 | 333,285 | 336,236 | 0.9% | 合計 | 47,002 | 38,082 | ▲19.0% |

資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコードは、バターが0405.10、脱脂粉乳が0402.10、チーズが0406、全粉乳が0402.21と0402.29。

注2：四捨五入により輸出先国の計と合計欄は一致しないことがある。

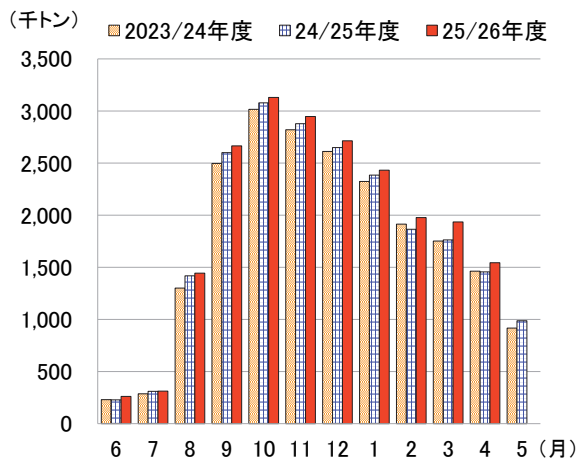
（調査情報部）

生乳生産量12カ月連続で前年同月を上回る

26年4月の生乳生産量、前年同月比6.0%増

ニュージーランド乳業協会（DCANZ）によると、2026年4月の生乳生産量は154万4000トン（前年同月比6.0%増）と、12カ月連続で前年同月を上回った（図1）。また、25/26年度（6月～翌5月）4月までの生乳生産量も、2136万1000トン（前年同期比3.5%増）と前年同期を上回って推移している。

図1 生乳生産量の推移



資料：DCANZ「New Zealand Monthly Milk Production Report」

注：年度は6月～翌5月。

この要因についてニュージーランド証券取引所（NZX）は、25年は北島、南島とも干ばつに見舞われたのに対し、26年は好天に恵まれて牧草の生育環境が良好であったことなどが寄与したとしている。

今後の生乳生産の見通しについてNZXは、良好な生産環境が持続すると見込んでいる。

26年4月の乳製品輸出量、チーズを除く主要3品目で増加

ニュージーランド統計局（Stats NZ）によると、2026年4月の乳製品輸出量は、チーズを除く主要3品目が前年同月を上回った（表、図2）。品目別に見ると、チーズは豪州向けが大幅に減少したため、輸出量は前年同月を下回った。一方で、脱脂粉乳はフィリピン向け、全粉乳、バターおよびバターオイルは中国向けがそれぞれ大幅に増加したことにより、いずれも輸出量が前年同月を上回った。25/26年度（6月～翌5月）4月までの乳製品輸出量では、主要4品目のうち全粉乳、バターおよびバターオイルが前年同期を上回った。

表 乳製品輸出量の推移

（単位：トン）

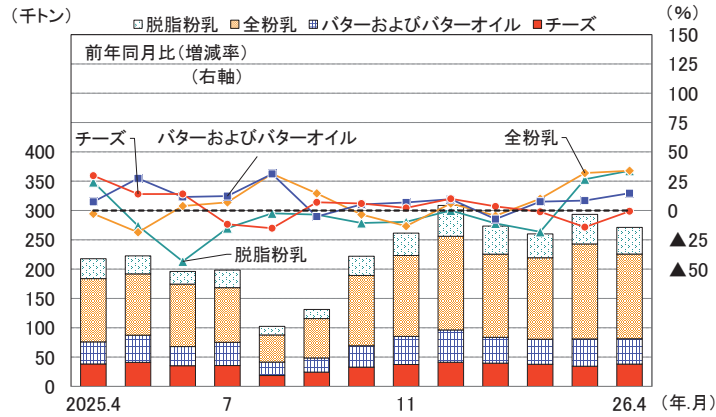
| 品目 | 2025年 4月 | 26年 4月 | 前年同月比 (増減率) | 25/26年度 (6月～翌4月) | |
|--------------|-------------|-----------|----------------|---------------------|-------|
| | | | | 前年同期比 (増減率) | |
| 脱脂粉乳 | 33,932 | 45,439 | 33.9% | 367,948 | ▲1.9% |
| 全粉乳 | 107,852 | 144,428 | 33.9% | 1,211,640 | 8.1% |
| バターおよびバターオイル | 37,660 | 43,206 | 14.7% | 402,662 | 7.2% |
| チーズ | 38,329 | 38,083 | ▲0.6% | 339,932 | ▲1.5% |

資料：Stats NZ「Overseas merchandise trade datasets」

注1：HSコードは、脱脂粉乳が0402.10、全粉乳が0402.21と0402.29、バターおよびバターオイルが0405.10と0405.90、チーズが0406。

注2：製品重量ベース。

図2 乳製品輸出货量および前年同月比（増減率）の推移



資料：Stats NZ 「Overseas merchandise trade datasets」
注：製品重量ベース。

26年5月19日のGDT平均取引価格、 主要3品目が前回を上回る

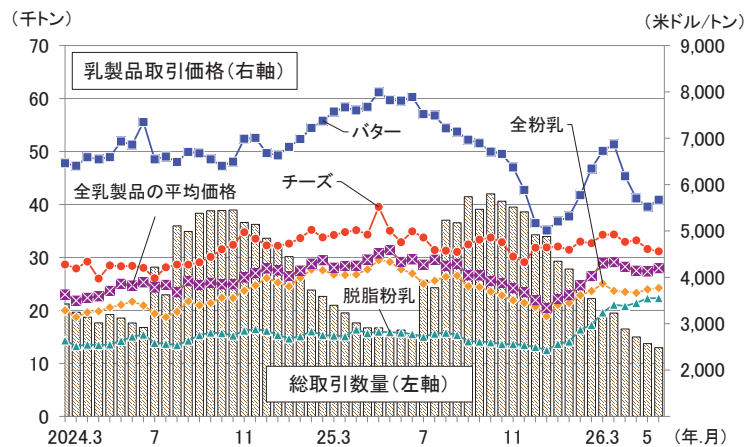
2026年5月19日開催のGDT^(注1) 平均取引価格は、主要4品目のうちチーズを除く3品目が前回開催時（26年5月5日）を上回った（図3）。取引全体では、全乳製品の平均取引価格は1トン当たり4198米ドル（67万3317円、1米ドル＝160.39円^(注2)、前回比

1.7%高）とわずかに上昇した。

市場価格についてNZXは、中東情勢や原油価格上昇の影響があるものの、乳たんぱく質製品を含む主要乳製品の底堅い需要により上昇したとしている。

(注1) グローバルデリートレード。月2回開催される電子オークションで、当該価格は乳製品の国際価格の指標とされている。
(注2) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年5月末TTS相場。

図3 GDTの乳製品取引価格と総取引数量の推移



資料：GDT 「GDT Events Results」

(調査情報部)

中国

26年第1四半期の生乳生産量は増加、チーズとバターへの輸入量は大幅増加

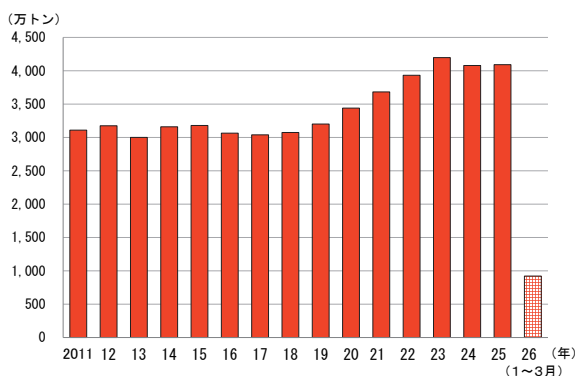
26年第1四半期の生乳生産量、前年同期比3.4%増

中国国家统计局によると、2026年第1四半期（1～3月）の生乳生産量は、922万トン（前年同期比3.4%増）と前年同期からやや増加した（図1）。

26年の生乳等生産量（注1）について中国農業農村部は、4月に公表した「中国農業展望報告（2026－2035）」（注2）の中で、乳用牛の飼養頭数は減少すると見込む一方、優良品種の導入や飼養管理技術の向上などから1頭当たりの生乳生産量が増加し、4220万トン（前年比2.7%増）と前年からわずかに増加すると見込んでいる。

（注1）牛由来の生乳のほか、ヤギやヤク等由来の乳を含む生産量。
（注2）詳細については、海外情報「中国農業展望報告（2026－2035）」を公表（牛乳・乳製品編）（中国）」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_004379.html）をご参照ください。

図1 生乳生産量の推移



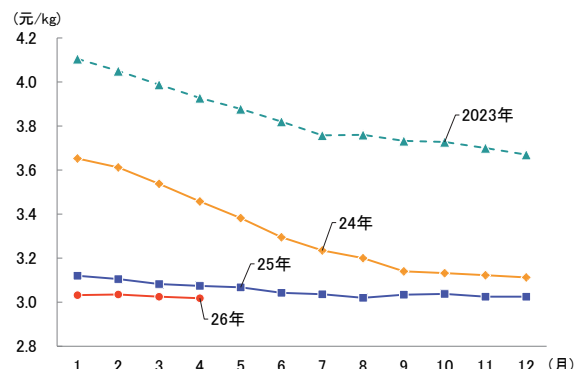
資料：中国国家统计局、中国乳業年鑑

26年4月の生乳価格、前年同月比1.8%安

中国農業農村部によると、2026年4月の生乳価格は1キログラム当たり3.02元（72円：1元＝23.82円（注3）、前年同月比1.8%安）とわずかに下回った（図2）。同国の生乳価格は25年6月以降、3.02～3.04元（71.9円～72.4円）と安値で推移しており、酪農経営にとって厳しい状況が続いている。

（注3）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年5月末TTS相場。

図2 生乳価格の推移



資料：中国農業農村部

注：主要10省・自治区（全国の生乳生産量の8割以上を占める）の農家庭先価格の平均。

この要因として同部は、26年5月に公表した「農産物需給動向分析月報（2026年4月）」の中で、生乳生産量が増加しており、供給が全体的に潤沢な状況にあることなどを挙げている。

26年1～4月の乳製品輸入量、チーズとバターが大幅増加

2026年1～4月の主要乳製品9品目の輸入量は、全粉乳、ミルクおよびクリーム、チーズ、バターの4品目で増加した（表）。特に、チーズ（前年同期比29.6%増）とバター（同46.0%増）は大幅に増加しており、ベーカリーや茶、コーヒーなどのドリンクショップ

の拡大で需要の増加が続いていることがうかがえる。一方、国内需要の大部分を輸入に依存する脱脂粉乳（同24.2%減）は大幅に減少している。この要因について現地関係者によると、生乳生産量の増加や生乳価格の低迷により収益性の高いバターの生産量が増加した結果、脱脂乳の生産量も増加したことで、脱脂粉乳の輸入需要が低下したとされている。

表 主な乳製品の品目別輸入量の推移

（単位：万トン）

| 品目 | 2024年 | 25年 | 26年 (1～4月) | 前年同期比 (増減率) | 【参考：輸入額】 |
|------------|-------|------|---------------|----------------|----------------|
| | | | | | 前年同期比 (増減率) |
| 全粉乳 | 41.0 | 38.4 | 19.7 | 6.4% | ▲8.3% |
| 脱脂粉乳 | 22.9 | 21.0 | 7.9 | ▲24.2% | ▲29.9% |
| 飲用乳 | 41.7 | 40.5 | 12.1 | ▲18.8% | ▲17.5% |
| ミルクおよびクリーム | 28.8 | 26.4 | 9.9 | 9.5% | 5.2% |
| ヨーグルト | 1.6 | 1.5 | 0.3 | ▲36.8% | ▲28.0% |
| チーズ | 17.3 | 19.7 | 8.2 | 29.6% | 21.2% |
| バター | 10.5 | 11.3 | 6.2 | 46.0% | 2.7% |
| 育児用調製粉乳 | 21.6 | 22.2 | 6.7 | ▲1.9% | ▲0.4% |
| ホエイ | 64.5 | 70.9 | 21.4 | ▲9.7% | 1.5% |

資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコードは、全粉乳が0402.21と0402.29、脱脂粉乳が0402.10、飲用乳が0401.10と401.20、ミルクおよびクリームが0401.50（脂肪分が全重量の10%以上）、ヨーグルトは0403.20、チーズが0406、バターが0405.10、育児用調製粉乳が1901.10、ホエイが0404.10。

（調査情報部）

飼料穀物

世界

26/27年度の期末在庫はかなりの程度減少

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）および同省海外農業局（USDA/FAS）は2026年5月12日、初回となる2026/27年度の世界のトウモロコシ需給予測値を公表した（表）。

これによると、同年度の世界のトウモロコシ生産量は12億9538万トン（前年度比1.3%減）と前年度からわずかに減少するものの、過去2番目となる見込みとなっている。このうち、主要国である米国やアルゼンチンなどは、作付面積の減少により生産減が見込まれている。

輸入量は、世界全体で1億9859万トン（同1.4%増）と前年度からわずかに増加すると

見込まれている。このうち、EUは1950万トン（同5.4%増）とやや増加すると見込まれている。

消費量は、世界全体で13億1479万トン（同0.3%増）と過去最高を更新することが見込まれ、生産量を上回るとされる。

輸出量は、世界全体で2億691万トン（同3.1%減）と前年度からやや減少すると見込まれている。これは、米国やアルゼンチンの減少見込みが影響したことによる。

この結果、期末在庫は、主要国の期末在庫の減少が反映され、2億7754万トン（同6.5%減）と2013/14年度以来の最低水準となる見込みである。

表 主要国のトウモロコシの需給見通し（2026年5月12日米国農務省公表）

（単位：百万トン）

| 国名 | 2024/25 年度 | 25/26年度 (推計値) | 26/27年度 | | |
|--------|---------------|------------------|---------|---------------|--------|
| | | | (5月予測) | 前年度比 (増減率) | |
| 米国 | 期首在庫 | 44.79 | 39.40 | 54.41 | 38.1% |
| | 生産量 | 378.27 | 432.34 | 406.29 | ▲6.0% |
| | 輸入量 | 0.55 | 0.64 | 0.64 | 0.0% |
| | 消費量 | 311.60 | 334.15 | 331.61 | ▲0.8% |
| | 輸出量 | 72.60 | 83.82 | 80.01 | ▲4.5% |
| | 期末在庫 | 39.40 | 54.41 | 49.71 | ▲8.6% |
| ブラジル | 期首在庫 | 7.35 | 11.38 | 11.58 | 1.8% |
| | 生産量 | 136.00 | 135.00 | 139.00 | 3.0% |
| | 輸入量 | 1.76 | 1.70 | 1.80 | 5.9% |
| | 消費量 | 91.50 | 93.50 | 97.00 | 3.7% |
| | 輸出量 | 42.24 | 43.00 | 44.00 | 2.3% |
| | 期末在庫 | 11.38 | 11.58 | 11.38 | ▲1.7% |
| アルゼンチン | 期首在庫 | 2.46 | 5.30 | 3.81 | ▲28.1% |
| | 生産量 | 49.00 | 59.00 | 55.00 | ▲6.8% |
| | 輸入量 | 0.01 | 0.01 | 0.01 | 0.0% |
| | 消費量 | 17.10 | 17.50 | 17.30 | ▲1.1% |
| | 輸出量 | 29.07 | 43.00 | 38.00 | ▲11.6% |
| | 期末在庫 | 5.30 | 3.81 | 3.51 | ▲7.9% |
| ウクライナ | 期首在庫 | 0.54 | 0.84 | 2.75 | 227.4% |
| | 生産量 | 26.80 | 30.90 | 30.00 | ▲2.9% |
| | 輸入量 | 0.02 | 0.01 | 0.01 | 0.0% |
| | 消費量 | 6.50 | 7.00 | 7.20 | 2.9% |
| | 輸出量 | 20.02 | 22.00 | 23.00 | 4.5% |
| | 期末在庫 | 0.84 | 2.75 | 2.56 | ▲6.9% |
| EU | 期首在庫 | 7.29 | 5.88 | 5.08 | ▲13.6% |
| | 生産量 | 59.59 | 56.80 | 57.50 | 1.2% |
| | 輸入量 | 18.76 | 18.50 | 19.50 | 5.4% |
| | 消費量 | 77.00 | 74.20 | 74.80 | 0.8% |
| | 輸出量 | 2.76 | 1.90 | 1.90 | 0.0% |
| | 期末在庫 | 5.88 | 5.08 | 5.38 | 5.9% |
| 中国 | 期首在庫 | 211.19 | 191.93 | 178.15 | ▲7.2% |
| | 生産量 | 294.92 | 301.24 | 307.00 | 1.9% |
| | 輸入量 | 1.82 | 6.00 | 6.00 | 0.0% |
| | 消費量 | 316.00 | 321.00 | 325.00 | 1.2% |
| | 輸出量 | 0.00 | 0.02 | 0.02 | 0.0% |
| | 期末在庫 | 191.93 | 178.15 | 166.13 | ▲6.7% |
| 世界計 | 期首在庫 | 313.98 | 294.80 | 296.95 | 0.7% |
| | 生産量 | 1232.07 | 1312.68 | 1295.38 | ▲1.3% |
| | 輸入量 | 186.11 | 195.86 | 198.59 | 1.4% |
| | 消費量 | 1251.26 | 1310.53 | 1314.79 | 0.3% |
| | 輸出量 | 187.32 | 213.61 | 206.91 | ▲3.1% |
| | 期末在庫 | 294.80 | 296.95 | 277.54 | ▲6.5% |

資料：USDA/WAOB [World Agricultural Supply and Demand Estimates]

注：各国の穀物年度 米国：9月～翌8月/ウクライナ、EU、中国：10月～翌9月/アルゼンチン、ブラジル：3月～翌2月。

(調査情報部)

26/27年度は主要国の生産増などから生産量、輸出量ともに増加見込み

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）および同省海外農業局（USDA/FAS）は2026年5月12日、初回となる2026/27年度の世界の大豆需給予測値を公表した（表）。

これによると、同年度の世界の大豆生産量は4億4154万トン（前年度比3.3%増）とやや増加すると見込まれている。このうち、最大の生産国であるブラジルは1億8600万トン（同3.3%増）と、過去最高となった前年度を上回る生産量が見込まれている。また、これに次ぐ米国は収穫面積の増加見込みから1億2070万トン（同4.1%増）、アルゼンチンは5000万トン（同4.2%増）とされた。さらに、中国も大豆の生産振興策を背景に、前年度をわずかに上回る2100万トン（同0.5%増）とされた。

消費量（搾油仕向け）は、世界全体で3億8314万トン（同3.7%増）とやや増加すると見込まれている。このうち、最大の消費国である中国は、前年度をわずかに上回る1億1000万トン（同1.9%増）とされた。

輸出量は、世界全体で1億8922万トン（同1.4%増）とわずかな増加が見込まれている。このうち、最大の輸出国であるブラジルは

生産量の増加を受けて1億1750万トン（同2.2%増）、これに次ぐ米国は4436万トン（同6.5%増）とされた。

期末在庫は、世界全体の生産量と消費量がいずれもやや増加する見込みなどから、1億2478万トン（同0.3%減）と前年度並みが見込まれている。

今回の予測では、米国の期末在庫が844万トン（同8.8%減）と前年度をかなりの程度下回る水準とされる中、USDAは米国の生産者販売価格を1ブッシェル当たり11.40米ドル（1828円、1キログラム当たり72円^{（注1）}：1米ドル＝160.39円^{（注2）}、前年度比9.6%高）と見込んでいる。

今回の予測値に関して中国の輸入量に目を向けると、同日付で中国農業農村部が公表した26/27年度の同国の大豆輸入量9550万トンと、USDAの予測値とは1850万トンの^{かいり}乖離がある。国際相場にも影響を与える中国の輸入動向が注目される。

（注1）1ブッシェルを約25.401キログラムとして農畜産業振興機構が換算。

（注2）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年5月末TTS相場。

表 主要国の大豆需給見通し（2026年5月12日米国農務省公表）

（単位：百万トン）

| 国名 | 2024/25年度 | 25/26年度 (推計値) | 26/27年度 | | |
|--------|-----------|------------------|---------|---------------|--------|
| | | | (5月予測) | 前年度比 (増減率) | |
| 米国 | 期首在庫 | 9.32 | 8.84 | 9.25 | 4.6% |
| | 生産量 | 119.05 | 115.99 | 120.70 | 4.1% |
| | 輸入量 | 0.79 | 0.68 | 0.68 | 0.0% |
| | 消費量 | 66.55 | 71.58 | 74.84 | 4.6% |
| | 輸出量 | 51.23 | 41.64 | 44.36 | 6.5% |
| | 期末在庫 | 8.84 | 9.25 | 8.44 | ▲8.8% |
| ブラジル | 期首在庫 | 29.76 | 37.69 | 37.69 | 0.0% |
| | 生産量 | 172.5 | 180.0 | 186.00 | 3.3% |
| | 輸入量 | 0.73 | 0.90 | 0.80 | ▲11.1% |
| | 消費量 | 58.16 | 61.50 | 65.00 | 5.7% |
| | 輸出量 | 103.14 | 115.00 | 117.50 | 2.2% |
| | 期末在庫 | 37.69 | 37.69 | 37.39 | ▲0.8% |
| アルゼンチン | 期首在庫 | 24.05 | 24.67 | 23.32 | ▲5.5% |
| | 生産量 | 51.11 | 48.00 | 50.00 | 4.2% |
| | 輸入量 | 6.32 | 7.30 | 6.50 | ▲11.0% |
| | 消費量 | 43.24 | 41.50 | 43.00 | 3.6% |
| | 輸出量 | 7.87 | 8.25 | 6.00 | ▲27.3% |
| | 期末在庫 | 24.67 | 23.32 | 23.92 | 2.6% |
| 中国 | 期首在庫 | 43.31 | 44.49 | 44.37 | ▲0.3% |
| | 生産量 | 20.65 | 20.90 | 21.00 | 0.5% |
| | 輸入量 | 108.00 | 112.00 | 114.00 | 1.8% |
| | 消費量 | 103.50 | 108.00 | 110.00 | 1.9% |
| | 輸出量 | 0.07 | 0.12 | 0.10 | ▲16.7% |
| | 期末在庫 | 44.49 | 44.37 | 44.27 | ▲0.2% |
| 世界計 | 期首在庫 | 115.13 | 125.91 | 125.13 | ▲0.6% |
| | 生産量 | 427.89 | 427.60 | 441.54 | 3.3% |
| | 輸入量 | 179.19 | 184.77 | 188.02 | 1.8% |
| | 消費量 | 359.09 | 369.53 | 383.14 | 3.7% |
| | 輸出量 | 184.17 | 186.57 | 189.22 | 1.4% |
| | 期末在庫 | 125.91 | 125.13 | 124.78 | ▲0.3% |

資料：USDA/WAOB [World Agricultural Supply and Demand Estimates]

注1：各国の穀物年度 米国：9月～翌8月/ブラジル、アルゼンチン、中国：10月～翌9月。

注2：消費量は搾油仕向量である。

(調査情報部)

米 国

生産量の減少などから期末在庫はかなりの程度減少

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）は2026年5月12日、初回となる2026/27年度（9月～翌8月）の米国のトウモロコシ需給予測値を公表した（表）。

26/27年度のトウモロコシ生産量は、作付面積と単収の減少から159億9500万ブッシェル（4億629万トン^{（注1）}、前年度比6.0%減）と前年度からかなりの程度減少すると見込まれている。

消費量は、飼料等向けの減少により130億5500万ブッシェル（3億3161万トン、同0.8%減）と前年度からわずかに減少すると見込まれている。

輸出量は、31億5000万ブッシェル（8001万トン、同4.5%減）と前年度からやや減少すると見込まれているものの、依然として

米国は世界第1位の輸出国である。

この結果、期末在庫は、19億5700万ブッシェル（4971万トン、同8.6%減）と前年度からかなりの程度減少すると見込まれている。

また、期末在庫率（総消費量に対する期末在庫量）は、12.1%（同0.9ポイント減）と前年度をわずかに下回ると見込まれている。

生産者平均販売価格は、1ブッシェル当たり4.40米ドル（706円。1キログラム当たり28円：1米ドル＝160.39円^{（注2）}、同6.0%高）と前年度からかなりの程度上昇すると見込まれている。

なお、USDAによると、26年5月末日時点のトウモロコシ主要生産18州^{（注3）}の作付け進捗率は全体で93%（前年同日は92%）

表 米国のトウモロコシの需給見通し（2026年5月12日米国農務省公表）

| 区分 | －単位－ | 2024/25年度 | 25/26年度 (推計値) | 26/27年度 | | |
|---------------|--------------|-----------|------------------|---------|------------------|---------------|
| | | | | (5月予測) | 参考（換算値） | 前年度比 (増減率) |
| 作付面積 | (百万エーカー) | 90.9 | 98.8 | 95.3 | 38.57 (百万ヘクタール) | ▲3.5% |
| 収穫面積 | (百万エーカー) | 83.0 | 91.3 | 87.4 | 35.37 (百万ヘクタール) | ▲4.3% |
| 単収 | (ブッシェル/エーカー) | 179.3 | 186.5 | 183.0 | 11.49 (トン/ヘクタール) | ▲1.9% |
| 期首在庫 | (百万ブッシェル) | 1,763 | 1,551 | 2,142 | 54.41 (百万トン) | 38.1% |
| 生産量 | (百万ブッシェル) | 14,892 | 17,021 | 15,995 | 406.29 (百万トン) | ▲6.0% |
| 輸入量 | (百万ブッシェル) | 22 | 25 | 25 | 0.64 (百万トン) | 0.0% |
| 総供給量 | (百万ブッシェル) | 16,677 | 18,597 | 18,162 | 461.33 (百万トン) | ▲2.3% |
| 国内消費量 | (百万ブッシェル) | 12,267 | 13,155 | 13,055 | 331.61 (百万トン) | ▲0.8% |
| 飼料等向け | (百万ブッシェル) | 5,454 | 6,200 | 6,100 | 154.95 (百万トン) | ▲1.6% |
| 食品・種子・その他工業向け | (百万ブッシェル) | 6,814 | 6,955 | 6,955 | 176.66 (百万トン) | 0.0% |
| うちエタノール向け | (百万ブッシェル) | 5,436 | 5,600 | 5,600 | 142.25 (百万トン) | 0.0% |
| 輸出量 | (百万ブッシェル) | 2,858 | 3,300 | 3,150 | 80.01 (百万トン) | ▲4.5% |
| 総消費量 | (百万ブッシェル) | 15,126 | 16,455 | 16,205 | 411.62 (百万トン) | ▲1.5% |
| 期末在庫 | (百万ブッシェル) | 1,551 | 2,142 | 1,957 | 49.71 (百万トン) | ▲8.6% |
| 期末在庫率 | (%) | 10.3 | 13.0 | 12.1 | | 0.9ポイント減 |
| 生産者平均販売価格 | (米ドル/ブッシェル) | 4.24 | 4.15 | 4.40 | 27.8 (円/kg) | 6.0% |

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

注1：年度は各年9月～翌8月。

注2：1ブッシェルは約25.401キログラム、1エーカーは約0.4047ヘクタール。

注3：換算値は端数処理の関係で表と一致しない場合がある。

まで進んでおり、発芽率は76%（同76%）、作柄割合^(注4)は「Good」が57%、「Excellent」が10%の計67%（同69%）と公表されている。

(注1) 1ブッシェルを約25.401キログラムとして農畜産業振興機構が換算。

(注2) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年5月末TTS相場。

(注3) コロラド州、イリノイ州、インディアナ州、アイオワ州、カンザス州、ケンタッキー州、ミシガン州、ミネソタ州、ミズーリ州、ネブラスカ州、ノースカロライナ州、ノースダコタ州、オハイオ州、ペンシルベニア州、サウスダコタ州、テネシー州、テキサス州、ウィスコンシン州の18州。

(注4) 「Very Poor」、「Poor」、「Fair」、「Good」、「Excellent」の5段階評価。

(調査情報部)

中国

26/27年度のトウモロコシおよび大豆の需給見通し

26/27年度のトウモロコシ生産量、前年度に続き過去最高見込み

中国農業農村部は2026年5月12日、最新の「中国の農産物需給状況分析」を公表した。このうち、初回となる2026/27年度（10月～翌9月）のトウモロコシの需給見通しは表1の通りである。

生産量は、作付面積および単収の増加により、前年度に続き過去最高となる3億600万トン（前年度比1.6%増）とわずかな増加

が見込まれている。農業農村部は、前年度の収益性が良好であったため、生産者の作付け意欲が高まったことを要因として挙げている。

輸入量は、600万トン（前年度同）と見込まれている。これは昨年度と同水準であり、中国がトウモロコシ輸入に設定している関税割当数量（720万トン）の範囲内である。

消費量は、3億1189万トン（同0.3%減）と前年度並みと見込まれており、引き続き飼料向けが消費量の6割以上を占めている。

表1 中国のトウモロコシ需給見通し（2026年5月12日中国農業農村部公表）

| 区分 | －単位－ | 2024/25年度 | 26/27年度 | | |
|-----------------|---------------|-----------|--------------------|--------|---------------|
| | | | 25/26年度 (5月推計値) | (5月予測) | 前年度比 (増減率) |
| 作付面積 | (千ヘクタール) | 44,741 | 44,961 | 45,133 | 0.4% |
| 収穫面積 | (千ヘクタール) | 44,741 | 44,961 | 45,133 | 0.4% |
| 単収 | (キログラム/ヘクタール) | 6,592 | 6,700 | 6,780 | 1.2% |
| 生産量 | (万トン) | 29,492 | 30,124 | 30,600 | 1.6% |
| 輸入量 | (万トン) | 183 | 600 | 600 | 0.0% |
| 総供給量（生産量＋輸入量） | (万トン) | 29,675 | 30,724 | 31,200 | 1.5% |
| 消費量 | (万トン) | 29,786 | 31,292 | 31,189 | ▲0.3% |
| 食用向け | (万トン) | 1,000 | 1,010 | 1,020 | 1.0% |
| 飼料向け | (万トン) | 19,350 | 21,090 | 20,960 | ▲0.6% |
| 工業向け | (万トン) | 8,340 | 8,100 | 8,120 | 0.2% |
| 種子向け | (万トン) | 128 | 129 | 129 | 0.0% |
| その他向け | (万トン) | 968 | 963 | 960 | ▲0.3% |
| 輸出量 | (万トン) | 0 | 1 | 1 | 0.0% |
| 総消費量（消費量＋輸出量） | (万トン) | 29,786 | 31,293 | 31,190 | ▲0.3% |
| 差引数量（総供給量－総消費量） | (万トン) | ▲111 | ▲569 | 10 | ▲101.8% |

資料：中国農業農村部

注：年度は10月～翌9月。

また、同年度の国内のトウモロコシ生産地平均卸売価格については、1トン当たり2300～2600円（5万4786円～6万1932円：1元＝23.82円^(注)）と、前年度並みの水準が見込まれている。

(注) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年5月末TTS相場。

26/27年度の大豆生産量は増加、輸入量は減少の見込み

2026/27年度初回の大豆の需給見通しは表2の通りである。

生産量は、2095万トン（前年度比0.2%増）と見込まれている。農業農村部は、大豆はトウモロコシに比べて収益性が低く、生産者の

作付け意欲は低下しているものの、単収の向上により、生産量は前年度並みと予測している。輸入量は、9550万トン（同7.6%減）とかなりの程度の減少が見込まれている。中国政府による国産大豆生産振興政策などから輸入量は減少傾向にあり、1億トンを超える数量となった24/25年度（1億937万トン）から1387万トンの減少となる。

消費量は、1億1396トン（同6.1%減）とかなりの程度の減少が見込まれており、引き続き搾油向けが消費量の8割を占めている。

また、同年度の国内の大豆平均卸売価格については、1トン当たり4600～5000円（10万9572円～11万9100円）と、前年度並みの水準が見込まれている。

表2 中国の大豆需給見通し（2026年5月12日中国農業農村部公表）

| 区分 | —単位— | 2024/25年度 | 26/27年度 | | 前年度比 (増減率) |
|-----------------|---------------|-----------|--------------------|--------|---------------|
| | | | 25/26年度 (5月推計値) | (5月予測) | |
| 作付面積 | (千ヘクタール) | 10,325 | 10,255 | 10,193 | ▲0.6% |
| 収穫面積 | (千ヘクタール) | 10,325 | 10,255 | 10,193 | ▲0.6% |
| 単収 | (キログラム/ヘクタール) | 2,000 | 2,039 | 2,055 | 0.8% |
| 生産量 | (万トン) | 2,065 | 2,091 | 2,095 | 0.2% |
| 輸入量 | (万トン) | 10,937 | 10,330 | 9,550 | ▲7.6% |
| 総供給量（生産量＋輸入量） | (万トン) | 13,002 | 12,421 | 11,645 | ▲6.2% |
| 消費量 | (万トン) | 11,856 | 12,135 | 11,396 | ▲6.1% |
| 搾油向け | (万トン) | 9,890 | 10,140 | 9,400 | ▲7.3% |
| 食用向け | (万トン) | 1,560 | 1,585 | 1,600 | 0.9% |
| 種子向け | (万トン) | 88 | 89 | 88 | ▲1.1% |
| その他向け | (万トン) | 318 | 321 | 308 | ▲4.0% |
| 輸出量 | (万トン) | 8 | 15 | 15 | 0.0% |
| 総消費量（消費量＋輸出量） | (万トン) | 11,864 | 12,150 | 11,411 | ▲6.1% |
| 差引数量（総供給量－総消費量） | (万トン) | 1,138 | 271 | 234 | ▲13.7% |

資料：中国農業農村部
注：年度は10月～翌9月。

USDAの予測輸入量に比べ、トウモロコシは同水準、大豆は下回る

米国農務省（USDA）が2026年5月12日に公表した、2026/27年度初回の世界の穀物需給予測値との比較では、同年度の中国

の輸入量は、トウモロコシは600万トンと同水準であるが、大豆はUSDAの予測値（1億1400万トン）を1850万トン下回っている。

（調査情報部）